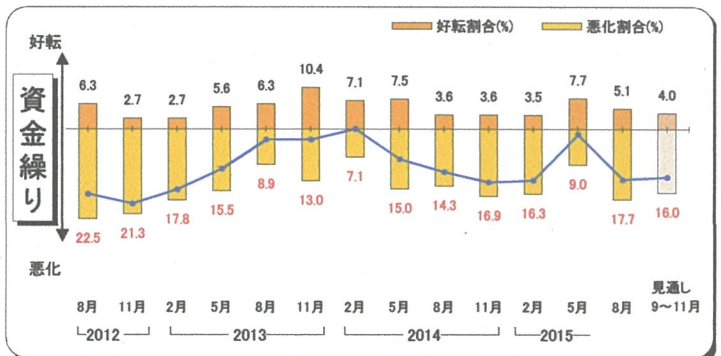
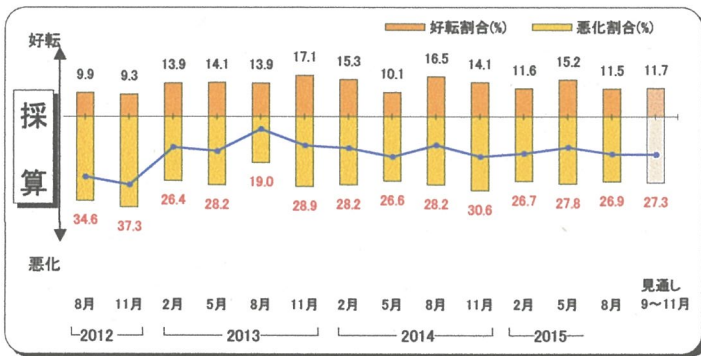
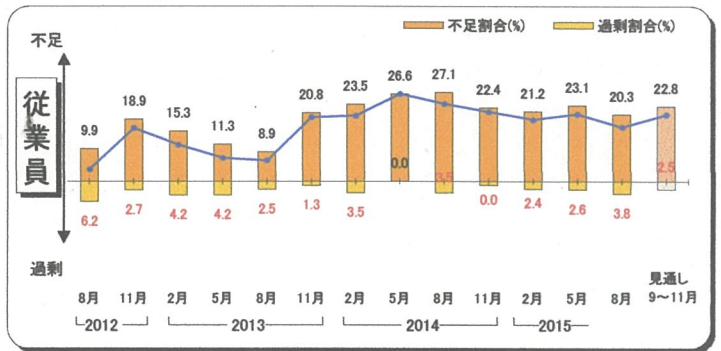
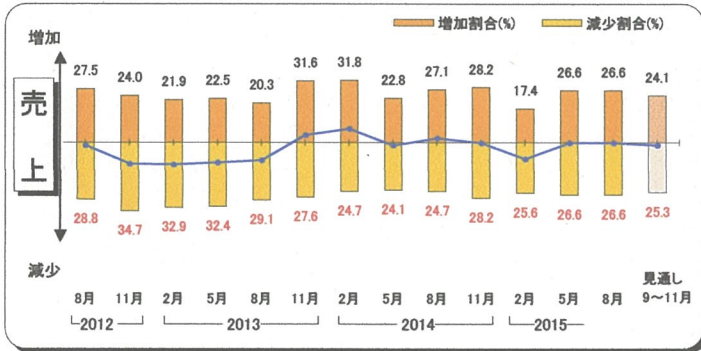
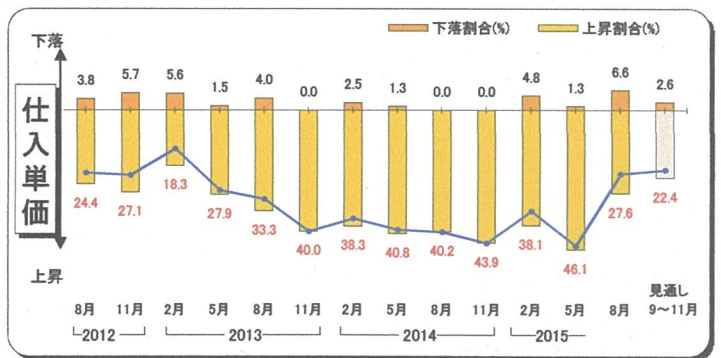
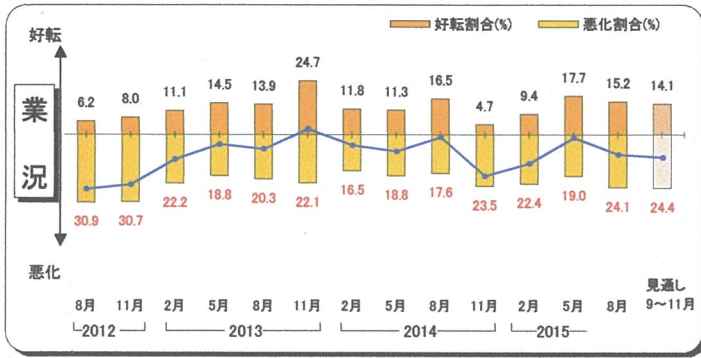


【サービス業】①



【サービス業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

テレビジョン番組制作業	ドローン空撮に関する法規則により映像業界から目が離せない。マイナンバーのセミナーがあちらこちらで行われているが、どのセミナーもセキュリティソフトの推進がメインのように思われ、根本的なマイナンバーのデータ利用根拠等が説明されない。役所関係がどこまでのデータを管理するのか、横のつながりはどうなっているのか、具体的に知りたいと思う。
運輸附帯サービス業	取引先関係の設備状況から極端に作業が減っている。円安で一段落したせいかな。その割に輸出も伸びていない様子だ。原料主体の港関係の仕事も輸出・輸入総じて減少傾向に思える。その結果は報道されたとおりだと思う。軒並み大手企業の業績は増益との報道で、雇用関係の数字も良いようだが、業種が偏っているのではと思う。設備投資等により建設関係は良いようだ。受注工事に余裕もあり、聞くところによると無理する必要はないという。世間でいう「景気は上向いている」と安心はできないようだし、中国経済の動向も気がかり。爆買い中国人の行動を見ると刹那的とも思え、逆に懸念を感じている。現状維持か減かと思う。
呉服・服地小売業	消費税の支払いが業況、資金繰りの悪化をよんでいるようです。
建築設計業	依然、景況感が上向いている実感はない。非常に不本意だが、仕事を受注するために価格競争に巻き込まれている。
建築設計業	平成 27 年度になり受注が減速気味となっているが、理由がわからない。企業努力不足なのか、業界全体の問題なのか。先行きが不安定なのがおさら不安を増すといった状況である。
建築設計業	平成 26 年度補正予算による業務の繰り越しが、業績・資金繰りに好影響となっている。公共事業は年度当初の受注が遅い傾向があることから、補正予算の執行は公共事業関連従事社にとっては有効である。本年度においても、景気の下支えの観点から、補正予算の実行を望みたい。
測量業	市場に活気がないと感じるようになった。
専門料理店	マイナンバーへの対応は顧問の社会保険労務士と打合せをしながら進めています。円安の影響が大きく、販売量を多くして売上高を安くしているが、利益を出せないでいる。かといって安易に値上げができない状況です。
喫茶店	最低賃金の上昇は中小企業にとって大きな痛手。事業存続にかかわる。大手企業が個人商店、中小企業をつぶして行くのが見えるのに弱者に対しての対策が皆無。
その他の自動車整備業	○物流（トラックドライバー不足）…高齢化・退職により、募集しても集まらない。トラックの減車（売却）により減収となる。 ○後継者問題…廃業またはM&Aにより取引の流れが変化。 ○乗用車（個人消費）…カーディーラーによる車の販売は、メンテナンスパック等でユーザーの囲い込み増等により我々から見た市場が大きく縮小している。
機械修理業	建機輸出にて海外の中古市場の変化がある様子で、アジア向け国内中古建機の価格の変動に注意しています。復興需要が一段落したのか、国内需要は停滞気味です。建機メーカー等大手メーカー生産調整の噂が出ている様子です。円安でこれまで買い控えていた諸国に動きがある様子で、問い合わせが増えています。
ディスプレイ業	個人事業主等社員以外のマイナンバーの収集・管理が難しい。